第Ⅱ章　調査概要

1　地区割と測量

平城宮・京の地区割と測量基準は、1989年４月に改訂を行っている（『1989年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1990）。これ以前、平城宮内では水田の地割りをもとに調査地区を設定し、局地方位を用いた局地座標系で測量を行っている。この方位は検出した内裏北面築地回廊北側溝の遺構の方位に合わせたもので、1954年の国営発掘以来採用し、国土調査法による国土方眼座標第Ⅵ系の方眼北に対して西に0°07′47″振れる。改訂以降は、局地座標系を廃止し、国土方眼座標第Ⅵ系を用いた現行の地区割りに移行した。このため、調査地区内には新旧の地区割りが存在し、やや複雑な様相を呈している。なお、調査では世界測地系は用いていない。

地区割　地区割と各調査区の関係はFig.２、Tab.２の通りである。

東院庭園に伴う発掘調査で、第120次調査までは、里道や畦畔を含まない水田部分を主とした調査であり、測量は局地座標系で行っている。これらの調査では水田一枚ごとに中地区名を与えており、遺物の取り上げなどの単位となっている小地区の３ｍグリッドは隣接する調査地区のグリッドと必ずしも一致しない。一方、第243－２次以降の調査は、里道の付け替えや畦畔の除去を行い、その下の未発掘区などを主としたものであり、これらでは国土方眼座標第Ⅵ系に基づく統一的な地区割を用いている。このように、隣接地であっても、旧地区割りどうし、旧地区割りと新地区割りの間では整合性はないものとなっている。なお、新地区割りの大地区名は旧地区割りにおける大地区名を概ね踏襲している。

測量　平城宮跡内に恒久的に設けられた基準点を使って、各調査ごとに基準点を設置した。この点を基準とし、遺構の平面および高さ、土層断面等の記録に1/20実測図を作成した。なお、局地座標系の実測図は、図面四隅の数値を国土方眼座標第Ⅵ系の数値へ変換して用いている。

航空写真測量　1967年度の第44次調査からヘリコプターにカメラを搭載し、上空から垂直に遺構を撮影する方法が採用された。第99次調査では、園池の上層遺構である洲浜礫敷きについては、手測りは行わずに写真測量を行い、のちに図化を行った。各調査における撮影の年月日等はTab.１の通りである。

Tab.１　航空写真撮影一覧

調査次数	撮影年月日	フィルム種別	写真縮尺	垂直写真枚数	焦点距離
第44次	1968. 2.13	モノクロ		乾板数８枚	不明
第99次　上層	1976.11.25	モノクロ	1/600,1/200,1/100他	61	153.00㎜
第99次　下層	1976.12.21	モノクロ	1/600,1/200,1/100他	50	153.00㎜
第110次　上層	1978.10.12	モノクロ	1/250他	23	153.21㎜
第110次　下層	1978.11. 2	モノクロ	1/400	3	153.21㎜
第120次	1980. 1.25	モノクロ	1/1000,1/1500	3	153.21㎜
第245-2次	1994. 2.15	モノクロ	1/800,1/500,1/300	38	153.22㎜
第271次	1996.10. 3	モノクロ	1/200～1/800	11	214.13㎜
第276次	1997. 3. 6	モノクロ	1/800,1/500,1/300	14	214.23㎜
第280次	1997.12. 2	カラー	1/800,1/500,1/300	10	213.67㎜
第284次	1997. 8.27	カラー	1/800,1/500,1/300	8	213.67㎜
第302次	1999. 7.21	カラー	1/800,1/400,1/200	10	213.67㎜
第323次	2000.12.21	モノクロ	1/100,1/135,1/110	4	153.21㎜

Tab. 2　地区割り基準座標値

調査次数	大・中地区名	小地区割りの基準	代表地区杭				
			代表地区杭名	平城座標		国土座標	
				SN	EW	X	Y
第44次	6ALF−E,F,L,M 6ALG−A,C	基準点No.3	MA70	N45	E240	−145,735.78	−17,839.41
第99次	6ALF−E,F,L,H,J,K	基準点No.3	KO70	N87	E240	−145,694.46	−17,839.51
第110次	6ALF−I	基準点No.7	IC70	S238	E482	−145,649.46	−17,839.65
第120次	6ALF−P,Q	基準点No.3	PL90	N78	E181	−145,702.91	−17,898.49
第245−2次	6ALF−B,C	中地区南東隅の座標	BO20	−	−	−145,650.00	−17,820.00
第271次	6ALF−A,B	中地区南東隅の座標	AR25	−	−	−145,701.00	−17,835.00
第276次	6ALF−A,B	中地区南東隅の座標	AH25	−	−	−145,731.00	−17,835.00
第280次(東区)	6ALF−A,B	中地区南東隅の座標	AD10	−	−	−145,743.00	−17,790.00
第280次(南・北区)	6ALF−A,B	中地区南東隅の座標	AH20	−	−	−145,731.00	−17,820.00
第284次	6ALF−A	中地区南東隅の座標	AH35	−	−	−145,731.00	−17,865.00
第302次	6ALF−B	中地区南東隅の座標	BJ35	−	−	−145,665.00	−17,865.00
第323次	6ALF−B	中地区南東隅の座標	BJ35	−	−	−145,665.00	−17,865.00

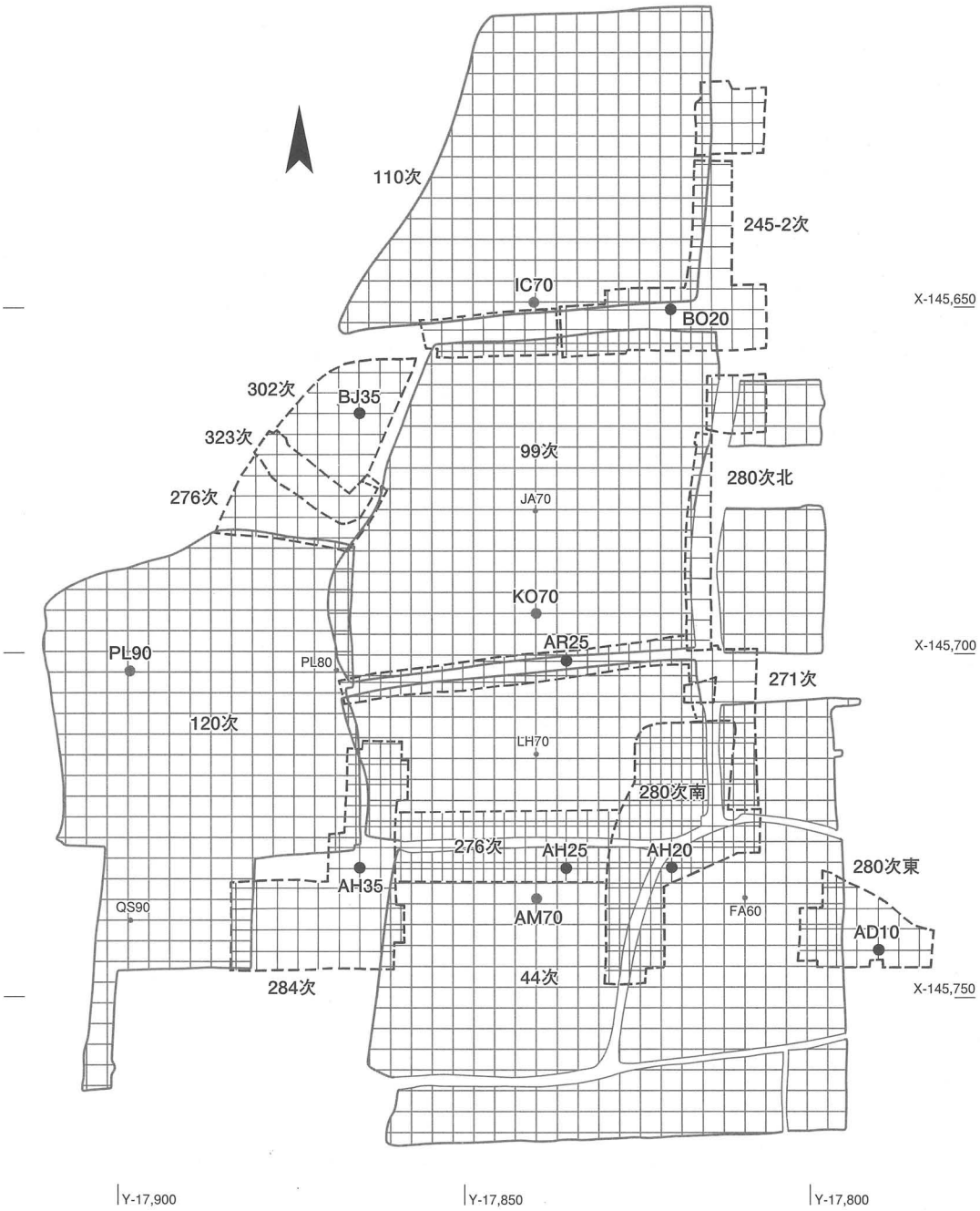

Fig. 2　地区割図（1：1000）

2　調査概要

本報告で取り上げた東院庭園地区の発掘調査期間は、1967年11月に開始された第44次調査に始まり、2000年12月に終了した第323次調査に及んでいる。その間、断続的に12回の発掘調査を33年にわたって実施したことになる（Fig.2,Tab.3，図版編PLAN 2～4参照）。発掘調査の総面積は、計14,675m²となるが、報告書所載対象外の地区や重複して発掘調査を行った部分を除くと報告対象地区の調査面積は約8100m²である。

Tab. 3　発掘調査一覧

次　数	地　区	調　査　期　日	面　積
44次	6ALF－L・Mほか	1967.11.29～1968.4.16	3795m²
99次	6ALF－E・J・K	1976.7.26～1977.1.18	2797m²
110次	6ALF－I	1978.7.20～1978.11.14	2100m²
120次	6ALF－P・Q	1980.1.8～1980.5.6	2500m²
245－2次	6ALF－B	1994.1.10～1994.3.17	620m²
271次	6ALF－P・Q	1996.8.30～1996.10.7	135m²
276次	6ALF－A・B	1997.1.23～1997.4.24	950m²
280次	6ALF－A・B	1997.9.30～1998.1.28	700m²
284次	6ALF－A	1997.6.27～1997.9.22	750m²
284次補	6ALF－A	1997.11.10～1997.11.28	8m²
302次	6ALF－B	1999.6.8～1999.7.30	235m²
323次	6ALF－B	2000.12.11～2000.12.28	85m²

A　第44次調査

1966年に東面南門を対象に行われた第39次調査において、平城宮の東辺は従来想定されていた範囲よりもさらに東に広がることが、遺構としても確認されるようになった。この成果を受けて、第44次発掘調査では、宮の東南隅を確定する目的で、調査区を設定した。調査の結果、東面築地大垣と南面築地大垣の交点を確認するとともに、宮外では、二条条間大路や東一坊坊間大路等の遺構が明らかになった。一方、宮内では、東南隅部分に園池、建物からなる庭園が設けられていることが判明した。園池の東南には楼状の建物、南には東西棟建物がある。また、園池は、岬、景石、中島、洲浜、排水暗渠、石組蛇行溝等で構成され、さらに北と西に広がっていることが確認された。このようにこの調査では、平城宮の東南隅を確定し、はじめて庭園遺構を検出するとともに、奈良時代の庭園の実態を明らかにする手懸りを得た。

東院庭園の発見

B　第99次調査

この調査は、1967年度に第44次調査で判明した園池の規模を明らかにするための調査である。第44次調査区に北接して調査区を設定した。

調査の結果、第44次調査で明らかになった園池SG5800に先行する園池の存在が確認されるとともに、付属施設も大きく2時期にわかれることが判明した。出土遺物等からA期は天平末年以前で養老5年頃まで、B期は天平勝宝年間に始まり、廃絶は9世紀前半と考えられた。検出した主な遺構は、園池、建物4、橋2などであり、園池の全容がほぼ判明した。

2時期の園池

A期　園池5800Aは、SG5800Bの下層から検出されたもので、南北45m以上、東西約46mに渡って広がる。南岸を第44次調査検出のSG5800Bの南岸に近いものと想定すると、南北の

下層園池

最大長は約60mとなる。底や護岸の一部には人頭大の玉石を用いており、東岸と西岸に各々2ヵ所の岬が配置されている。給水溝としては東北隅に石組溝SD84656が設けられている。この時期の建物としては、西岸中央北寄りにSB8480がある。掘込地業のみが残り、礎石と柱掘形を併用した建物と考えられる。

上層園池

B期　2期に区分される。園池SG5800Bは、第44次調査で明らかになった園池5800Bの北半部にあたる。園池SG5800Aの石敷、石組の大半を取り外し、一部を埋め戻し、その上に礫を10㎝前後の厚さで敷きつめ、汀線についても礫敷とする。池の東北隅は東面築地際まで拡張され、北岸には築山SX8457が新設される。また、景石を伴う岬の出入りは大きくなり、SG5800Aに比較して汀線は曲線的となり、意匠の変更がうかがえた。

B1期の遺構としては、西岸北寄りに礎石建物SB8470、露台SB8471、橋SX8453がある。B2期には礎石建物はSB8470は廃され、A期の建物、SB8480の位置を踏襲するようにSB8490が建てられ、その東に露台SB8466、橋SC8465が新設され、北の橋SC8453は残される。

また、東西大垣地区の調査では築地SA5900の基底部と東西の雨落溝、築地に先行する暗渠SD8436などを検出するとともに、築地は、一部に改修があるものの、奈良時代を通じて存続することが判明した。

C　第110次調査

この調査は、園池北辺の実態を明らかにする目的で、第99次調査区の北方で行った。北西から南東に下がる自然地形に応じて、調査区内では整地がなされている。検出した遺構には、礎石建物4、掘立建物12、掘立柱塀5、溝19、石敷道路状遺構4などがあり、8期に区分できる。庭園関係の遺構としては、庭園地区の北や北西を限る掘立柱塀SA9060・9061・9063・9064や、園池への給水溝SD9048・9046・9047・9749・9050・8456の存在が明らかとなった。

庭園の北区画施設

北の区画塀はSA9063→SA9060→SA9064の順に、その位置を変えながら改作され、南の園池との間に、建物が配置されている。そして、SG5800A期とSG5800B期では、園池北方の空間の広さや建物配置に変化のあることが明らかになり、空間利用のあり方が時期により異なっていることが想定された。給水路は玉石組の溝であり、一部建物等の雨落溝を兼ねたとは言え、水源からの水を複雑な系統で給水していることが判明した。

D　第120次調査

この調査は、園池の西岸及び西の区画の実態を明らかにする目的で行った。調査地の東は、第44次・99次調査区に接する。検出した遺構は園池、掘立柱建物18、塀14、溝2、道路1などであり、8期に区分できる。このうち、庭園関係遺構としては、園池SG5800A・Bの西岸、園池の排水溝SD9275・5850、園池の西の区画施設である掘立柱南北塀、南面大垣及び南面大垣に先行する東西素掘溝SD9272Aなどである。

園池5800Aは、第99次調査で確認されたように、人頭大の玉石を用いて構築されている。さ

園池は3時期

らに、西岸では従来の護岸の状況とは異なった石積擁壁が最下層遺構として認められ、園池SG5800Aが更に2時期にわかれる可能性のあることが判明した。

排水溝SD5850は、第44次調査で検出した石組蛇行溝、SD9275は築地北雨落溝SD9272Bに

取り付く石組溝である。上層園池SG5800Bになると、平面形はSA5800Aを踏襲しながらも、第99次調査地区と同様にこの地区でも、汀線を広げ、スロープを礫敷とし、岬を拡張している。また、園池西方も全面的に礫敷を施す。

西の区画施設である南北塀３条は、ほぼその位置を踏襲している。いずれも雨落溝を伴い、SA9287→SD9280・9281→SA9288・SD9282→SA9289・SD7566の順となる。それぞれ、SA9287はSG5800A、SA9288・9289は、SG5800Bの時期である。北の区画施設が改作ごとに、その位置を変えているのと対称的である。

庭園の西区画施設

E　第245－２次調査

東院庭園地区では、1993年度より復原整備事業が始まり、事業対象地区では未調査を残さずに全面的に発掘調査を行う方向が示された。調査地は、第99次調査区と第110次調査区との間に逆L字形に残された里道部分であり、先の調査区と調査区を重ねながら発掘調査を行った。

復原整備

検出した主要遺構には、東面大垣とその両雨落溝のほかに、掘立柱建物２、溝11、木樋暗渠１、土坑などであり、先の両次の調査で検出された遺構と一連の遺構も多い。時期的には東面大垣の築地築造期をはさんで、その前後に大きく区分される。

東面大垣では南面大垣の西半で確認されている築地に先行する掘立柱塀は、存在しないことが確認された。それに代わって築地に先行する奈良時代の素掘溝を検出したことによって、これらの溝が当初、東の区画施設であった可能性が生じてきた。

また、東面大垣築地については、掘込地業が行われ、その規模が幅5.7ｍ、深さ１ｍ～0.5mであること、築地基底部幅が約2.7ｍ、犬走り幅約1.2ｍであるなど、築造の手順、規模等が判明したことに加えて、東面大垣を横断する木樋暗渠の構築過程が明らかになった。

東面大垣築地築造後の遺構の中では、園池SG5800への給水の詳細が明らかになった。すなわち、下層園池SG5800Aでは、当初SD9050からSD8456系統で給水していたものが、建物SB9072の新築により従来の給水系が変更されている。また、SG5800Bでは新たに水溜り施設SX16305が新設され、一部は東面大垣西雨落溝からも給水されていたことなどである。

複雑な給水系統

F　第271次調査

第44次調査区と第99次調査区との間に残されていた、水田畦畔と里道部分について行ったものである。

上層園池SG5800Bについては、東岸汀線部、池底の礫敷、および中島中央部の状況について以下の点が判明した。東岸汀線部では、池底の緩やかな立ち上がりに続くが、汀線部分は約35％の急勾配で立ち上がり、外側は再度平坦面となり、礫敷が東面大垣まで続いていること。池底の礫敷は、池底では径５㎝以下の礫を主体とするが、中島周辺や東岸ではやや直径が大きくなり５～10㎝の礫が目立つこと。中島は東西11m、南北９ｍの規模で池底から約0.4ｍの高さで遺存しているが、上半部は削平されていることなどである。

中島

東西大垣部分では、すでに築地の積土は失われていたが、掘込地業は、幅が3.3m、深さ0.15ｍであることを再確認するとともに、大垣の西雨落溝を検出した。

G　第276調査

調査区は①園池地区の西北部、②南面大垣上に残された里道部分、③園池の13ヵ所に設定した補足調査トレンチの３ヵ所にわかれる。

園池地区西北部の調査区では、調査区中央で、第120次調査区から続く西の区画施設である掘立柱南北塀３、南北溝４のほか、その東で、上・下二層の礫は礫敷を検出した。これらの礫敷の検出によって、園池洲浜の外側にも東と同様に礫が敷かれていたことを再確認した。

補足調査トレンチでは、最下層園池SG5800Xの南岸、東岸、北岸の一部を検出したことにより、その平面形が逆L字状をなし、下層園池SG5800Aと大差ないことが判明した。

最下層園池

南面大垣上の里道部分では、第44次調査区内について、再清掃も併せて行い、南面大垣SA5505、園池西南岸の建物SB17582、園池西南隅の排水溝SD5850、園池東南隅の排水溝SD5830などについて精査を行った。南面大垣SA5505は、掘込地業の上に高さ約0.5mほどの積土が残っている。しかし、当調査区の西方ですでに確認されている築地に先行する掘立柱塀は、想定位置は存在しないことを確認した。また、排水溝SD5850は、従来は直行する排水溝SD9275と同時期と考えられていたが、層位的にはSD5850が上層となり、両者は併存しないこと、東南隅の排水溝SD5830は、木樋暗渠抜き取り後に、石組溝SD5830Bに改修されていることが判明した。

H　第280次調査

第280次調査区は東、南、北の３調査区にわかれる。ここで報告の対象となるのは南区の一部と北区である。

南区は第44次調査時に里道となっていた部分であり、第44次調査において隅楼とよばれた建物SB5880の範囲を含んでいる。第44次調査ではSB5880の柱位置は一部里道に残っていた為に、建物復原に十分な資料を得ることができなかった。その為、SB5880の平面規模を明らかにするために、里道部分に加えて、SB5880の既掘部についても再発掘を行った。

遺構の時期は大きくA～Dの４時期にわかれる。A期は東面大垣SA5900、南面大垣SA5505に先行する時期で、南北素掘溝SD17760、東西素掘溝SD17580、斜行素掘溝SD17761などがあり、これらの溝は東南隅でSD17762と合流し、南流する。SD17760、SD17580は、南区以外でも築地大垣に先行する状況で断片的に検出されており、大垣以前の宮の区画施設であったと考えられる。また、SD17761は最下層園池SG5800Xの排水溝と推定される溝であり、この溝の検出により、SG5800Xがある程度の期間存続していた可能性が高まった。

宮大垣に先行する素掘溝

区画施設が南面築地大垣AS5505や東面築地大垣SA5900として整備されたB期以降は南区が、東院庭園地区の東南隅にあたるためか、数条の溝が開削あるいは埋戻され、錯綜した様相を示している。

建物SB5880は時期変遷のD期にあたる。新たに検出した柱穴は、一部既出のものを含めてSB5880の東側柱列の柱掘形４ヵ所である。第44次調査の所見では、SB5880の柱掘形は方２間の身舎と北庇、南庇の柱掘形が検出されたものとされていた。しかし、身舎西妻柱位置の柱掘形は規模等を考慮すると、他の柱掘形に比べて異質であり、SB5880の建物を構成する柱掘

SB5880の平面形態

形でないものと判断された。従って、SB5880は桁行３間、梁間２間の東西棟建物の北に桁行１間、梁間２間の南北棟建物が東に寄せてとりつく建物となる。この際、東西棟の西妻柱とその東の柱を省略する。このように、SB5880の平面形態が判明し、建物復原にむけて、より確実な資料を得た。

北区は第99次調査区の東にあたり、当時里道となっていた部分である。調査地は東面大垣の内側にあたり、園池外側の舗装状況の確認を目的とした。遺構には、南北素掘溝SD17760、南北塀SA1773、礫敷SX1774などがある。礫敷は北端で上層園池SG5800Bの岸の地形にすりついており、上層園池に伴う可能性が強い。

Ｉ　第284次調査

対象地は、園池南岸西半から南面大垣、壕地、二条条間路北側溝に及ぶ。調査区は北区と南区にわかれ、北区は第44次調査区と第120次調査区の間に南北に細長く残された旧水路部分の未発掘地で、調査面積は約40㎡である。

園池南岸の建物

園池SG5800の南岸西半には、第44次・120次調査で東西棟建物SB17700、第276次調査で、SB17700に重複する建物SB17582の存在が予想されていたが、規模等については不明な点が残されていた。調査の結果、園池南岸西半の遺構にはＡ～Ｃの３時期の変遷があることや、建物規模などが判明した。Ａ期は下層園池SG5800Aの南岸西半に、建物SB17582が建つ時期である。SB17582は掘立柱東西棟建物で、桁行は６間、梁間は２間、柱間は８尺等間、北側柱は池内にせり出して建てられている。Ｂ期は上層園池SG5800Bの南岸西半に建物SB17700が建つ時期である。SB17700はSB17582の位置をほぼ踏襲して立て替えたものである。桁行５間、梁間２間の身舎の北側のみに縁をつけている。建物の南半には、礎石を使用し、池にせり出す北側柱列と縁束は掘立柱とする。Ｃ期は建物を廃し、SG5800Bの南岸西半を礫敷の洲浜に改修する時期である。改修部分には、他の洲浜部分に比べて大ぶりの礫を揃えており、従来は工程差と考えられていたが、時期差であることが判明した。さらに、北区では南面大垣SA5505北雨落溝や園池西南隅からの排水溝である石組蛇行溝SD5850を検出した。石組蛇行溝SD5850と園池南岸西半の建物との伴存関係を、層位的に明らかにすることはできなかったが、各時期の遺構の標高の検討の結果、石組蛇行溝SD5850が、園池SG5800Aの時期でなく、園池SG5800Bの時期である可能性が高まった。

上層園池の改修

南区では南面大垣SA5505の掘込地業、南雨落溝SD9375、南面大垣に先行する東西溝SD17717などを検出したが、東院南門以西で検出されている築地に先行する掘立柱塀SA5010は当地区までは延びていないことを確認した。

Ｊ　第284次調査補足

この調査は、園池西岸の岬SX9417において、岬の築成と景石の据付状況を検討する目的で行った断割調査である。調査の結果、園池は、最下層園池、下層園池、上層園池の３時期の変遷があることを再確認するとともに、岬SX9417は、上層園池の時期になって築成していることが判明した。

西岬の景石

景石２点については、岬の築成層の最上層から掘込まれた土坑に納まるものと岬築成層の最

上面下から掘込まれた土坑に納まるものがあることが判明した。いずれの土坑にも景石を支える根石は認められず、特に岬の築成層の最上面から掘込まれた土坑が、景石の据付穴であるのか、景石の落込み穴であるのかについては、本調査のみでは判断を下すことはできなかった。

K　第302次調査

調査地は、宇奈多理神社の東に位置し、第99次・110次・276次調査区に囲まれている。検出した主要な遺構には石組蛇行溝1、玉石敷小池２、石詰暗渠１、掘立柱塀４、柱穴２のほかに上・下２面にわかれるバラス敷がある。石詰暗渠は上層バラス敷面で、その他の遺構は下層バラス敷面で検出した。

この調査では、池の西北隅に園池SG5800Aへの給水路・石組蛇行溝SD18120や庭園の西北を区画する斜行の掘立柱塀の存在を確認した。

石組蛇行溝

石組蛇行溝SD18120には、上流部２ヵ所には石組小池SX18125・18130が付設されている。石組蛇行溝SD18120は側石は抜き取られていたが、底石は良好な状態で残り、側石を含めた幅は1.1～1.5m、深さは10～15mに復原できる。

石組蛇行溝SD18120は、遅くとも天平宝字年間（765年）頃までは、機能していたと考えられ、その後石詰暗渠SD8472が給水路となる。これまでに園池への給水は、池の東北隅１ヵ所が知られていたが、池の西北隅にも奈良時代を通して給水施設が設けられていたことが判明した。

庭園の西北区画施設

庭園地区を限る施設としては、西は第120次・276次調査によって南北方向の掘立柱塀、北は第110次調査によって東西方向の掘立柱塀が検出されていた。今回の調査によって、両者をつなぐ斜行溝SA18122・18123・9061を検出したことにより、庭園地区の西北部の区画がより明確となった。

L　第323次調査

調査地は宇奈多理神社の東に位置し、第99次・276次・302次調査区に囲まれた範囲である。この調査では、第110次・302次調査で検出した園池地区の北西を限る斜行塀SA18122・18123・9061と第120次・276次調査で検出した園池地区の西を限る南北塀SA9287・9288・9289の接続状態や、第302次調査で検出した石組蛇行溝SD18120の園池SG5800への合流部の実態解明が期待された。

従来の所見では、斜行塀のうちSA18122とSA18123は南北塀SA9287に、斜行塀SA9061は南北塀SA9288に接続するとみられていたが、調査の結果、斜行塀SA18123は南北塀SA9287と接続しない可能性が生じるとともに、南北塀SA9289は、さらに１間延びることも確認された。このように南北塀と斜行塀は、その接続点で複雑な様相を示しており、従来の所見の再検討の必要となった。

湛水施設

また、石組蛇行溝SD18120の南延長部にあたる部分は、近代の野井戸や水路等で破壊され、検出できなかったが、SD18120の南端で湛水施設の可能性のある土坑SK18327を検出した。

3　調査日誌

A　第44次　6ALF－L・M　1967.11.29～1968.4.16

11月29日　本日より調査開始。耕土除去。

12月15日　床土除去を開始。

12月23日　床土除去を継続。G・Hの中間から北側に大きな溝状遺構を確認。西側ではLJ73～LJ75を結ぶ線の北に褐色バラスがあり、L字状に曲がる。LDラインの南に幅1mで黄褐色土が東西方向に堆積、南面築地か。

1968年

1月8日　69ラインを挟んで、床土を除去しながら、床土直下の褐色粘質土上面で遺構検出。南北方向の小溝を検出。

1月9日　LH65北側に池状遺構SG5800を確認。緑釉陶器、瓦器出土。

1月10日　63・64ライン間の調査、南面築地の東延長部は里道下に入る。

1月11日　褐色粘質土を除去し、東から灰褐色土上面で遺構検出を開始。63ラインで大きな掘形の柱穴3ヵ所を検出。

1月12日　63～65ラインにかけて遺構検出。8カ所に柱穴を検出したが、現状では建物としてまとまらず。柱穴には、柱根の残るものや、抜取穴の伴うものがある。Dラインでは、石組の東西溝あり。南面築地の北雨落溝SD9272か。

1月16日　SG5800の埋土を掘り下げる。

1月17日　71～73ライン間の遺構検出。南面築地には積土が残り、その北にはSD9272がある。池の掘り下げでは、LH70で北に延びる岬SX9272を確認。池埋土から舟形木製品出土。

1月19日　69～75ライン間の遺構検出。Dライン北では東西方向に蛇行した石組溝SD5850を検出。掘形があり、粘質土で埋められている。池の南端では護岸の貼石を確認。LF73、LG73に各1カ所柱穴を検出。

1月20日　LF73～77、LG73～77にかけて南北1間、東西3間分の柱掘形を検出。南の柱筋は布掘になる。昨日検出したSD5850は蛇行しながらさらに池に近づく。

1月22日　SD5850は、西端で調査区外に延びる。布掘は、さらに西に1間分延び、東西4間SB17700となる。池岸には玉石を貼り付けている。

1月23日　池の形を明らかにするために、池の肩に幅1mで貼り付けられた玉石を追う。「中島」SX8460には貼石は認められない。SD9272は、側石はほとんど抜かれているが、底石は残る。SD9272が埋められた後にSD5850が作られたことを確認。SD9272は2時期あり、新しい溝はSD5850と関連するものか。

1月24日　SD9272とSD5850の底石をDラインに沿って精査。71ラインを境にしてSD5850の方向が不明となる。

1月25日　LD70～68付近で灰褐色粘質土を除去し、SD9272と素掘溝を検出。Dラインに沿ってSD9272の東延長部をLD66で検出。66ラインに沿って素掘南北溝SD5830を検出。

1月26日　SD5830を掘り下げる。深さ1.2m、底には角材を数ヵ所据えており、築地部分は暗渠か。

1月27日　LD64でSD9272の検出を試みるが、その位置は土坑によって壊されている。

1月31日　遺構の整理を行う。現在までに判明した遺構は、池の南岸、中島、池の排水暗渠SD5830、南岸の東に隅楼SB5880、西にSB17700ほかSD5850、SD9272等である。

2月6日　池の清掃。

2月8日　池の清掃後、空撮。

2月9日　写真撮影。

2月12日　池の岩質鑑定。

2月24日　南面築地南側の床土除去開始。

2月26日　床土除去後、暗褐色粘質土面で遺構検出。築地南雨落溝SD9375とSD5830延長部を検出。SD5830延長部がSD9375を壊している。

2月27日　南面築地南接地の遺構検出。南北溝は2条あり、古い方から62ライン南北溝SD9375、SD5830延長部の順になる。

2月28日　61ラインに新たに南北溝を検出。

3月2日　南面築地と61ライン南北溝、SD5830との前後関係を検討。61ラインの溝は古い。SD5830は、池や雨落溝からの排水を同時に行うものか。

3月5日　現地報告会。清掃後、写真測量。

3月14日　清掃後、地上写真。

3月15日　実測準備。

3月21日　実測開始。

3月28日　SB5880の柱掘形の断割。柱は八角形に面取され、横木等に固定される。

3月29日　SB5880の柱穴のチェック。柱穴は褐色土層下の灰色の面から振り込まれ、柱を建てた後、褐色土を積んでいる。

4月1日　SB5880は、東西3間、南北1間分を確認。石の礎板や根石を据えた柱穴があり、また、柱の水平を保つ楔も確認。調査時に、壁が崩落し布掘状となる。

4月4日　SD5830を掘り下げる。底に据えられ

た木材は木樋暗渠の台の可能性が強い。
4月5日　SB5880、LD64柱穴の礎板を実測。
4月6日　池の「中島」SX8460の断割調査。池の底に灰褐色粘土を敷く。
4月15日　築地雨落溝の補足調査。
4月16日　調査終了。

B　第99次　6ALF-E・J・K　1976.7.26～1977.1.18

7月26日　調査開始。表土の除去を始める。
8月7日　床土の除去を始める。8月19日終了。
10月4日　J・K区の小地区設定。周辺整備。
10月5日　器材搬入。
10月6日　遺構検出開始。東はKR62～KR70間の灰褐色土、西はKQ71～77ライン間の暗灰粘質土の除去。65ラインにSG5800の池岸の礫を確認。
10月7日　JAラインからJCライン間に向けて礫直上の灰褐色土を除去。68～73ライン間の灰褐色土は厚さ20cm程度である。
10月8日　JC～JDライン間の灰褐色土を除去し、礫面を出す。東の64～68区、西の73～76区に礫層が広がる。
10月9日　JDライン以北の灰褐色土除去、灰褐色土は66ラインより東は薄く、西は厚い。JD73、JD75で根石の集中部分を検出。総柱の礎石建物か。立石（築山）周辺で灰褐色土を除去。築山では大きな石の下に礫がある。
10月13日　調査区北端から南に向けて遺構検出。築山SX8457上の表土、瓦礫層、暗褐色バラス層を除去。各層からは近世の瓦や陶磁器が出土。東ではJC62、JD61で池岸の礫敷が現れる。西半ではJD73～75で人頭大の玉石を用いた根石を確認。特にJD73では、扁平な片麻石の周囲に細やかな砂利を敷く。
10月15日　遺構検出。74ラインで南北溝、JC74区で根石、JB62・66で池の汀線を検出。
10月18日　R～Bライン間の遺構検出。東半では東岸汀線の検出。JA65・66、JB65・66では中島状となる。西半ではJA74・75、KQ74に柱掘形を検出。その東には灰褐色礫が堆積。74ラインの南北溝はKSラインの東西溝に合流し、出土遺物から近世以降であることが判明。
10月19日　Rライン以南の遺構検出。東岸の汀線を確認。池の堆積土は上から暗灰色粘土、黒褐色砂質土、礫混砂となる。KP62～KO64で池に通じる溝を検出。西半ではKO72で岬状の張り出し部を確認。
10月21日　西半では西岸汀線の一部を確認し、「中島」SX8460を検出。
10月22日　池の上層堆積土である暗灰色粘質土を除去し、下層の黒褐色砂質土上面を出す。上層は厚さ20cm内外で宋銭等出土。
10月23日　KP～KP、65～70の暗灰色粘質土を掘り下げる。遺物なし。
10月25日　西半のKS～JCライン間で暗灰色粘質土を掘り下げ、黒褐色砂質土上面を出す。JA71で柱根を検出。掘形は不明。
10月26日　JC～JEラインで床土の残りと暗灰色粘質土を掘り下げる。
10月27日　JEライン以北の遺構検出。築山では、南辺の石の大半は二次的に移動している。JF61で池の東端、JF72で方形にならぶ石を検出。
10月29日　JGライン以北の調査。床土の残りと暗灰色粘質土を除去。JG73地区で礫の下から池岸の大礫が現れる。E区、築地の東雨落溝SD5815検出。
10月30日　Hラインより南に向かって池底を出し始める。Fラインまで進む。東区（69ライン以東）JE65、JF65で柱穴掘形4ヵ所を確認。65～62ラインは青灰砂が堆積。62ラインで礫敷の傾斜面が現れる。西区で下層の黒褐色砂質土に遺物が多い。JF72では扁平な玉石を敷き並べているがJF71からJF65までの池底は礫敷である。
11月1日　F～Cライン間で黒褐色砂質土を掘り下げる。池底には礫を敷く。65・66ラインに柱掘形及び柱根を東西1間、南北3間分検出。池の東端はJD61まで延びる。JD72で池底に礎石を確認。
11月2日　JC～JAライン間で黒褐色砂質土を掘り下げる。
11月4日　JB～KSライン間で黒褐色砂質土を掘り下げる。KS64・65で汀川の礫敷斜面を露出。JA、JB65・66で岬の石敷を出す。JC65で橋脚掘形SC8465を検出。
11月5日　JA～KQライン間の遺構検出。池東岸の確定。汀線斜面に砂、玉石、岩を配している。岩の抜取跡はKQ66に顕著。65ライン以東では黒褐色礫をはずし、黄褐色粘質土を出す。71区では池底のたまりを掘りあげる。72区以西では黒褐色礫を出し遺構面を出す。
11月6日　東岸では65・66ラインで池の水際で石組の石の抜取跡2カ所を検出。西岸ではRライン以南に置土が認められる。
11月8日　Qライン以南の調査。黒褐色砂質土を掘り下げ汀線、池底を露出する。KM67中央の穴は径2m近くあり、泉又は井戸の可能性あり。KQ79は汀線が入り込んでおり、池の給水部か。
11月9日　池東部では、灰色砂と礫を敷きつめ緩斜面を形成。KS65の礫は乱れ、下に石敷面を確認。西半部KQ79では人頭大の石を用いた護岸を

検出。KL79を拡張し池の西端を出す。

11月10日　KR、KS77・76で下層池SG5800Aの存在を確認。KS65でも礫敷下に石敷を検出。

11月11日　78ライン以西で下層池の池底を露出開始。KS78・79では玉石敷の部分と灰色砂の部分がある。

11月12日　KM～S78・79で上層礫敷をOラインまで除去、Mライン付近では下層池の石敷が現れはじめる。KS65～71にトレンチを設け、下層池底を確認。

11月13日　花粉分析のサンプリング。

11月15日　KM～KO、73～78ライン間で中島周辺の精査。J区西北部で検出していた柱掘形の検出にかかる。礎石根石、掘立柱掘形などを検出。東西棟5間×3間の総柱建物か。

11月16日　JD61～JH70間の清掃及びHライン以北で灰褐色礫の除去。礫は67ラインより西が厚く、東が薄い。給水路と考えられる溝状石組SD8456や橋脚SC8453掘形を検出。重複関係から石組溝は下層池に伴うものか。

11月17日　清掃を行いながら東西棟建物周辺の調査を継続。東西棟建物の東延長1間分を確認。根石群の掘形を一部掘り下げる。新たに小柱穴3ヵ所を確認。

11月18日　清掃後、JC71の礎石状根がらみを写真撮影。

11月19日　JB～KO、70～71ラインを中心に精査。JA70～KP71にかけて、東西約2m幅で南北に並ぶ2列の柱穴を検出。上層池礫敷面から掘込まれている。

11月20日　K区西岸の清掃。KRライン上に東西に並ぶ柱掘形3ヵ所、KQ・KR68で柱掘形2ヵ所を検出。68ラインの西1mでは人頭大の玉石を用いた幅50cmの石組がKGからKMまで連なる。

11月22日　北側から散水車を使用して清掃。

11月24日　清掃継続、空撮準備。

11月25日　空撮、地上写真撮影。

11月26日　地上写真撮影、現地説明会。

11月29日　地上写真撮影後、KO73～79、JE71～JG71築山の南で上層池底礫敷の除去開始。

11月30日　K区では西岸よりの石敷、灰色砂を除去。岸辺には灰青色粘土を貼っていることを確認。J区では築山周辺の上層礫敷を除去。築山に沿って下層池の石敷が1m幅でめぐる。

12月1日　K区では西岸で礫敷、青灰色粘土灰色砂を除去し、地山を出す。下層石敷の遺存状況は不良。KO75では下層池の岸を確認。J区東北部で下層池の石敷を露出する。平面形は上層池の平面形に沿っており、汀線には青灰色粘土を貼る。

12月2日　K区ではPライン以北の斜面石敷を除去。護岸石組、池底石組を検出。入江の部分にのみ池底の石を敷く。KQ76で柱穴を検出。八角形の柱根SB8490あり。J区では、上層池礫敷をはずす。Cライン以南には下層池の石敷は認められてない。岬部分は青灰色粘土、黒色土で構成。

12月3日　K区74～65ライン間で上層礫敷を除去。KM71・72に下層池石敷が現れる。

12月4日　J・K区で上層池礫敷を除去。

12月6日　J・K区71～74ライン間で上層池礫敷を除去。J区では幅1mで下層池石敷が南北に延びる。KQ72・73でも石敷を確認。

12月7日　昨日に引き続き下層池石敷の検出。

12月8日　K区建物周辺で礫敷下の青灰色砂礫、青灰色粘土を除去し、遺構検出。柱穴、礎石を新たに検出。

12月9日　J区池西北部で下層池の隅を確認。KR76で土坑を検出。

12月10日　J区71ラインにおいて上層池護岸の礫敷を検出し、池の北岸を確定。西岸を精査、数ヵ所に小柱穴を確認。KR76で昨日検出した遺構は礎板の伴う柱穴であることが判明。

12月13日　69ライン畦の土層図を作成し、畦をはずす。KQ69で柱掘形を検出。

12月14日　築山の断面実測及び写真測量。JA66にある岬の盛土を除き、石敷を検出。石敷はさらに約3m北に延びる。調査区北西部の池外で遺構検出、顕著な遺構なし。

12月15日　築山の転石除去、清掃。

12月16日　清掃、空撮準備。

12月21日　空撮終了後、地上写真撮影。

12月21日　地上写真撮影、12月23日終了。

12月24日　柱穴の断割後は写真撮影。

12月27日　柱穴の断割。

1977年

1月6日　ベルトコンベアー再配置。

1月7日　JAライン断割、KQライン掘立柱柱根取り上げ後、礎石建物SB8470周辺実測準備。土層図作成。

1月11日　礎石建物平面図作成。礎石建物の南にある建物SB8480の長方形布掘りを検出。

1月12日　布掘りを掘り下げる。一部埋戻し開始。

1月13日　南建物の平面図作成。池中央部西岸（JA61～KQ61）柱穴列の断割。

1月14日　KQ76で南建物の西妻、南側柱の掘形を検出。71ラインの柱穴列を下げる。石や建築部材を礎板としていることを確認。

1月17日　JA71～KP71の柱穴列を精査。KS71の柱穴でKQ71の柱穴と同様に八角形の柱を新規建物SB8490の礎板としている。

1月18日　実測、調査終了。

1月19日　砂入れ、本格的な埋め戻し開始。

C　第110次　6ALF-I　1978.7.20～1978.11.14

7月20日　調査区を設定し、排水溝を掘る。耕土、床土下に暗灰色粘質土、含礫暗褐色土、含礫黄褐色土があり、含礫黄褐色土上面を出す。

7月21日　土層観察用畦を69ラインJラインに設定。69～71ラインにかけて、含礫暗褐色土を掘り下げ、含礫黄褐色土上面を出す。

7月24日　含礫暗褐色土の除去を継続。69～67ラインまで。

7月25日　含礫暗褐色土の除去、北よりは薄く茶褐色砂質土が出る。67～64ラインまで。

7月26日　含礫暗褐色土の除去。63ラインで平瓦を4枚並べた溝検出。62ラインでは茶褐色砂質土下に南北溝を検出。築地西雨落溝か。

7月27日　調査区東端62ライン～西へ遺構検出開始。65ラインまで終了。62ラインの南北溝は暗褐色砂質土が残るGライン以南では未検出。

7月28日　遺構検出。65～69ライン間。南北、東西方向の小溝を検出。中央部にはバラス敷あり。

7月29日　遺構検出69～71ライン間。

7月31日　遺構検出71ライン以西。調査区北半では茶褐色バラス混土、Gライン以南には灰色砂質土が堆積し、後者が新しいもの判明。

8月1日　Gライン以南の灰色砂質土を掘り下げ黄褐色粘質土上面を出す。

8月2日　調査南壁の土層観察。

8月3日　Jライン以南。66～72ライン間の遺構検出。Fラインに沿って、凝灰岩切岩を東西に並べた遺構を確認。

8月4日　遺構検出継続。バラス層は2層あり、上層の褐色バラスは現代、下層の灰色バラスは奈良時代と判明。

8月5日　73～74ライン間で褐色バラスを除去し、遺構検出。調査区西端では東面築地を検出。灰褐色土下に築地崩落土が残る。

8月7日　調査区西南隅に作業を集中。堆積土は複雑な様相を示し、上から茶褐色土、灰色砂、灰色粘質土、褐色砂質土（淡褐色粘質土）となる。遺構面は褐色砂質土上面と判断。

8月8日　Gライン以南75ラインより上層堆積土を除去し、褐色砂質土上面で遺構検出。

8月12日　排水後、西南部の精査。

8月14日　再び西辺より東に向かって遺構検出。柱穴数ヵ所を確認。

8月16日　73～71ライン間の遺構検出。72～73、C～Dラインにかけて灰色バラスが分布する。

8月22日　65～64ライン間の遺構検出。J～Kライン間で石組東西溝SD9059を検出。この溝の南肩には人頭大の玉石敷がある。路面か。石敷の南には灰色バラスが集中。石敷の南東SF9057で凝灰岩礎石を検出。

8月23日　64～61ライン間の遺構検出。前日に引き続き石敷きの精査。63～64ライン間で石敷はなくなる。調査区東端の東面築地の調査にとりかかる。

8月24日　東面築地の精査。築地積土が残る。

8月25日　再度63ライン～西へ精査。検出面は黄褐色土上面。I～Hライン間に東西方向の溝状土坑を確認。柱穴は数ヵ所にあるが、平面形確定作業は難行する。石敷溝は斜めに折れ曲がる。

8月26日　68～69ライン間の精査。

8月28日　69～72ライン間の精査。柱穴多数を検出。

8月29日　調査区西より再度遺構検出。西北部では整地が複雑になされ、地山→黒褐色整地土→褐色粘質整地土→黄褐色土（従来の検出面）となる。

8月30日　東へ引き返し72～68ライン間で遺構検出。調査区西南部で、斜め方向に並ぶ柱穴を検出。

8月31日　68～64ライン間の精査。IJ67で南北石組溝SD9083、H～G間で溝状遺構を検出。

9月1日　東北区で遺構検出。東西方向に延びる灰色砂礫層を確認。そのまま東に延び、東面築地下に入る。

9月2日　南辺で検出していた東西石組溝の上を、今までの検出面である黄褐色土が覆うことを確認。69ライン畦付近で東西方向の石組あり。西雨落溝と関係するものか。

9月4日　調査区東北部の精査、東西棟は南廂が伴うものと推定。黄褐色土では柱の掘形が見えない。I・Jラインの東西で9尺等間で柱掘形が4つ並ぶ。

9月5日　石敷は2段になる。67ラインで南北溝を幅50cmの規模で検出、南は石敷下となる。

9月6日　東北部の建物は南北棟2間×5間以上の身舎の東西に廂の付く建物SB9073としてまとまる。

9月7日　東面築地西雨落溝や池の給水路確認の為、東辺部の精査。

9月8日　写真撮影、実測。

9月9日　実測準備。

9月11日　実測。9月18日終了。

9月18日　Iライン以南で、従来の検出面である黄褐色土を厚さ20cm掘り下げ、東から遺構検出。63ライン上に柱根の残る柱掘形5ヵ所を検出。礫混黄褐色土を単一層と見ていたが、上下に分層可能なことが判明。

9月19日　礫混黄褐色土を除去しつつ、63～65ライン間の遺構検出。

9月20日　66～69ライン間の遺構検出、Cライ

ンに沿って東西方向の石敷SF9044、石組溝SD9051を検出。

9月21日　石組溝が南折することを確認。

9月22日　69～76ライン、D～Fライン間で遺構検出。東西石組溝、南北石組溝、東面築地下では暗渠を確認。木樋本体は未確認。

9月24日　北東部及び南西部の精査。南西部ではID71地区の石組溝につくり替えがある。

9月26日　南東部で池の給水部分の調査。古い石組東西溝SD9050は東に延びる。木樋あり。IJ63で土坑SK9090検出。

9月28日　IJ63土坑より木簡出土。柱掘形を建物にまとめるべく、欠落している柱穴を精査。SB9071の平面形を確定。SB9071の入側柱筋の掘形を確認。SA9064は東に1間延長。石敷通路の前身遺構である石組溝を東へ捜すも未確認。

10月2日　斜行塀は東北方向にさらに延びる。SB9071に対応すると思われる礎石掘形をII63で検出。

10月3日　南西部にある斜行塀SA9061はJラインまで8尺等間で延びる。東西塀SA9063にとりつくか。IF65で石敷を検出。

10月4日　SA9061の精査。さらにKラインまで延びて、東西塀SA9060に取り付く。調査区内では11間となる。

10月5日　清掃。

10月9日　清掃後、地上写真撮影。

10月11日　東面築地暗渠位置を東に拡張、暗渠蓋石を検出。蓋石は二段となる。

10月13日　空撮及び地上写真撮影。

10月14日　細部について写真撮影を行うとともに地上写真撮影。柱掘形の断割開始。

10月16日　断割調査継続。

10月17日　東面築地木樋暗渠部の農道を一部断割。暗渠は築地積土以前に施行されている。

10月18日　木樋暗渠周辺実測。西雨落溝SD9040に新旧2時期あり。IB69で柱穴を断割る。礎石状の礎板と横木を検出。

10月19日　調査区南辺西側で遺構検出。東南部で精査、断割、建物まとまらず。

10月20日　IB68、ID68に布掘り地業を確認。東端を明らかにする為、黄褐色土下層の除去を始める。東北区の下層に2.3棟の建物を推定。本格的な補足調査が必要となる。

10月24日　布掘り掘形をDライン上、E～Fライン間、Gライン上の3ヵ所で確認。礎石建物か。

10月25日　Jライン以北では63ライン以東の黄褐色土下層を除去。南北方向の浅い素掘溝を検出。木簡出土。東西棟建物の東妻柱筋の掘形を確認（5間×3間）。Jライン以南では64ライン以東では遺構検出。

10月26日　前日の作業を継続するとともに、東西塀の推定されるJ～Kライン、64～69ライン間を掘り下げ、東西塀SA9063の柱掘形を検出。

10月27日　布掘り掘形のプランを精査。東北区下層最大の建物は南に廂を持つ建物となる。

10月28日　東南区東北部の精査。

10月30日　布掘り建物SB9075の北妻柱位置をIG68に推定し、精査するも未検出。

10月31日　建物をまとめる為に必要な柱穴の精査、東南部で塀と考えた柱穴列は南北棟となる。

11月1日　土層図作成。

11月2日　清掃。地山写真撮影。下層遺構実測準備。

11月5日　実測、11月8日終了。

11月9日　柱穴の断面検討。実測、写真撮影。スチールテープで柱間を計測し、とりあげ開始。

11月10日　前日の作業を継続。東南部南北棟建物SB9072の西側柱列の柱穴はいずれも底に礎板を敷く。

11月11日　前日の作業を継続。3間×5間の建物SB9068には柱穴底に丸太材や玉石を敷き並べ、その上に角材を井桁に組んでいる。布掘り掘形を持つSB9075の断面図作成。

11月13日　IF68で布掘り掘形SB9075の断割。

11月14日　壁面土層の追加実測。調査終了。

D　第120次　6ALF-P・Q　1980.1.8～1980.5.6

1月8日　床土除去。調査区東端で池西岸と思われる砂質土と粘質土の境目が現れる。

1月9日　床土除去。東端部の土層は、床土・黄褐色粘質土・灰褐色砂質土・礫敷となる。

1月10日　床土除去。南半部を終了。

1月11日　床土除去。第99次調査区との重複部分を掘下げる。池東岸の一部が現れ始める。PH87、PE87に石敷を確認。

1月12日　床土除去。

1月14日　南面築地上の床土除去。

1月16日　89ライン以東で遺構検出。

1月29日　89ライン以西の遺構検出を開始。検出面は整地土層上面。88ラインに沿って石組溝が現れ始める。

1月30日　88ラインから東に向かって遺構検出。84ラインの東で灰褐色砂質土と礫混黄色粘質土の区分が明瞭な部分あり。第44次で検出した池の汀線の礫敷を清掃。81ラインより東はその上に暗灰褐色粘質土が堆積。

1月31日　82～84ライン間の遺構検出。茶褐色

礫土が厚く残り、顕著な遺構なし。Kライン以南では茶褐色粘土が薄く残る。PJ、PK83で小石を組んだ南北溝を検出。

２月１日　茶褐色礫土を除去しつつ、その下の灰色砂質土ないし礫敷面で遺構検出。83・84ライン間に平行する二条の南北石組溝SD9280・9282を検出。石組溝に平行して10尺等間で柱穴SA9289が現れ始める。

２月２日　84ラインの東側で昨日検出した柱列の続きを精査、さらに続く。PE84ではL字型になる石列SX9293を検出。周囲に礫敷が良好に残る。

２月４日　PEライン以南の遺構検出。SA9289に続く柱穴を検出、５間分になる。南面築地部分の精査、北雨落溝SD9272の石列が現れ始める。

２月５日　84ライン以東の茶褐色礫土を除去しつつ遺構検出。SD9272は北側石が不明確な為に掘らず。83ラインで礫敷下にSD9282を確認。88ラインで柱痕の残る柱穴を確認。南北塀の一部と考えられる。

２月６日　SD9282の側石を確認しつつ北へ掘り進める。底にはバラスが敷かれている。池の本体を掘下げ始める。堆積土は上層が暗灰色砂、下層が黒褐色砂質土である。柱穴をかなり検出したが、現在のところ建物としてまとまらない。

２月７日　池の汀線の大粒の礫敷を確認。SD9282ではKラインで消滅し、以北は礫敷となる。溝の下層にも同様の石組溝SD9280が存在する。溝の側石を壊して南北塀SA9288の掘形を確認。84ライン沿いの柱穴も南北塀になる可能性が大きい。84ライン以西に多くの柱穴確認。

２月８日　SA9289は北へ9間分確認。池はNラインまで検出。汀線は直線ではなくPK81は東に張り出す岬SX9417となる。

２月９日　88ラインPN88で重複する柱穴を検出。少なくとも2時期の塀の存在が考えられる。SA9289を北へ10間目を確認。また、Lラインの南で検出した古い南北石組溝SD9282の北延長部が現れ始める。底には平らな玉石を敷く。

２月13日　調査区北端まで１回目の遺構検出を終了し、再び南下して遺構検出。84ライン以東では第99次調査区の池埋土を全て除去し、池岸の礫敷を出す。池は上層のみを掘下げる。SA9289はさらに２間分北に延び、計14間となる。SD9282は発掘区北端まで続く。87・83ライン間で南北棟４間×２間の建物SB9315がまとまる。

２月14日　84ライン以東、PO83とPN83で既出の南北溝の間に新たに２ヵ所の柱掘形を検出。東へ柱を抜き取る。SD9282を掘下げ底石を露出する。池は礫敷を確認しながら南へ進む。84～91ラインではPNラインの北で８尺等間で東西4間分の掘形を検出。昨日２間×４間の南北棟と考えた建物SB9315はさらに１間南に延び５間となる。重複関係では最新。

２月15日　北からJラインまで遺構検出。83ラインの石組溝は底に玉石を敷くSD9280が古く、バラスを敷くSD9282が新しいことを再確認。84ライン以西では柱穴を多数検出しているが建物としてまとめきれていない。

２月16日　清掃を兼ねながら1／200略側図作成。

２月18日　84ラインで塀に先行する南北溝の痕跡を検出。85～88、F～H間で東西に長軸をとる長方形土坑SE9295を確認。

２月20日　第44次調査で明らかになった池SG5800の南西部の調査を始める。SD5850、SD9272・9275の北延長部の精査。SD5850は北へ延びるが、現在露出している礫敷下にもぐる。池と礫敷の関係について再検討の必要あり。Dラインでは、南面築地の北雨落溝を検出。側石の一部と底の礫敷が残る。北雨落溝は地区により状況が異なり３期の改修が考えられる。

２月21日　池周辺、81ライン沿いで新たに南北石組溝SD9275を確認。溝の南端は築地北雨落溝の北で東に折れ曲がる。これまで検出した溝の中では最古か。水の流れた痕跡なし。南面築地の南の壇地部の調査を開始。

２月22日　壇地部では88ラインで南北方向の暗渠痕跡を確認。

２月23日　池汀線の清掃。残していたバラス下に礫敷を確認。礫敷からは緑釉陶片。軒瓦6133型式出土。

２月25日　池部分の清掃。

２月28日　P区の遺構検出再開。

２月29日　84ライン以東、PF83～PI83のSD9280・9282間に10尺等間の柱穴を検出。

３月１日　88ライン、84ラインの塀掘形の精査。88ラインの塀の柱掘形をPM区で確認。

３月３日　84ライン以東G～J区で既出の塀の柱位置に対応して10尺等間の柱穴４ヵ所を確認。新たな塀か。SD9280の底で柱穴２個を検出。これは２月29日に検出したものと一連。柱掘形の検出が進み、建物としてまとまりはじめる。

３月４日　清掃を行いながら、再遺構検出を北へ進める。

３月６日　SE9295の掘下げを始める。瓦、桧皮出土、東壁に井戸枠材確認。池西南部で第44次で確認したSB17770の西延長部を検出。

３月８日　清掃、現地説明会の準備。

３月10日　清掃、SE9295の断面観察用畦をとりはずす。

３月12日　空撮、地上写真。

３月13日　地上写真。

３月14日　実測。

3月29日　実測終了。
3月31日　ダメ押し調査開始。84ラインに残していた土層観察用畦をはずす。
4月2日　84ライン東、南北溝まで再遺構検出。SA9289は南に延びる。SA9289はSD9282と方位が揃う。SA9289、SA9288に先行する南北塀を新たに検出。
4月3日　SA9289、SA9288に先行する南北塀の検出。
4月4日　池南西部の清掃。
4月5日　SD5850、SD9275を池の合流点まで掘り進めるが、その接点は、後世に攪乱されている。池の築造や中島の築成時期を明らかにする為に、トレンチを設定、掘下げる。
4月7日　池の断割。
4月11日　南面築地以前の状況確認の為、C～D 82～84にトレンチ設定。南雨落溝SD9375と築地下の南北暗渠SD9281の延長部分を確認。83ラインの南北塀3条のうち2条SA9287、SA9289は1間南に延びて15間となることが判明。調査区西南部、東南部にも各々トレンチを設定し、北雨落溝と築地基壇土との関係を整理。池トレンチではSG5800Aの掘形を確認するとともに裏込めを下げる。SG5800Aに2時期の可能性あり。
4月12日　CD82～84トレンチの精査、88ライン南北塀南端の精査、最新塀はさらに南に1間延びることを確認。
4月15日　清掃。
4月17日　空撮。
4月18日　清掃後、地山写真撮影。
4月19日　PF75井戸写真撮影。
4月21日　調査区東壁土層図作成。
4月22日　東壁土層図作成、PF75井戸掘形SE 9295撮影。
5月2日　池のだめ押し。SG5800A－1の時期の半島SX9417有無確認の為、半島中央部に新たにトレンチを設定。SG5800A－1の掘形を確認。
5月6日　半島部トレンチを東に拡張するとともに東にさらに小トレンチを入れ、SG5800A－1に半島のないこと、SG5800Bで「半島」を拡張したことを確認。本日をもって終了。
5月7日　砂入れ、埋戻し（5.7～8.4）。

E　第245－2次　6ALF－B　1994.1.10～1994.3.17

1月7日　地区設定。調査区はL字状となる。南北調査区、東西調査区と仮称。
1月10日　器材搬入。
1月11日　旧発掘区を遺構面まで掘り下げ、新規発掘地は床土の除去を開始。
1月12日　第110次調査区検出面は現地表下1m。
1月13日　第99次調査区の埋土除く。
1月17日　第110次調査区で、調査区東端に東面築地の積土を確認。
1月18日　雨の為に崩れた崩落土の除去。
1月19日　南北調査区で、既出の石組溝、木樋を再発掘。
1月20日　南北調査区にて遺構検出、東半部には築地積土が残る。
1月21日　南北調査区西半部に南北溝を検出、北側では築地西雨落溝SD9040を底面まで下げる。BM～BS17・18区でバラスを敷いた溝SD16309を検出。新しいものか。
1月24日　西雨落溝SD9040の精査。側石抜取穴から木簡出土。
1月25日　バラス敷溝SD16309の清掃、写真撮影、SD9040の検出。溝には築地より落下した瓦が堆積。東西調査区の調査を開始。
1月26日　東西調査区の灰褐色土、赤褐色土を除去し、バラス敷きを出す。南北調査区ではSD9040の南半とSB9072の柱穴を検出。石組溝より新しい。
1月27日　東西調査区BN20～25で石組東西溝2条を検出。南北調査区BT－CA17・18では、築地積土を確認。またSB9072の柱穴土検出。
1月31日　BN18・19で池の給水部にあたる大南北溝SX16305が現れ始める。BM21の石組溝SD 8456はバラスにより埋められる。
2月2日　北にある木樋暗渠SD8436部分と南の池給水路部分について拡張、掘り下げ開始。
2月3日　北拡張区は掘り下げ、東西調査区西側の遺構検出。
2月4日　北拡張区清掃、南拡張区遺構検出、東西調査区東側遺構検出。
2月7日　南拡張区遺構検出、東面築地の東雨落溝SD9040、柱穴を検出。東西調査区西側では給水路の掘り下げ。
2月8日　南拡張区遺構検出。東雨落溝SD5815は2時期ある。築地西側では石敷南北溝の下に南北溝を検出。給水部分の掘り下げ。
2月9日　西雨落溝と石敷南北溝を一部除去して下層溝を検出。東西調査区遺構検出。SB9075の柱穴を検出。
2月10日　東西調査区遺構検出。清掃。
2月14日　清掃。地上写真。写真のため木樋の全形を露出。
2月15日　清掃。空撮終了後、実測準備。
2月23日　実測終了。
2月24日　断割調査開始。SB9072の東側柱掘形、

木樋の掘形を確認。築地部分を掘り下げ。
2月25日　木樋周辺の精査、築地の断割。
2月28日　木樋をとりあげ、その部分で築地を断割る。
3月1日　築地の掘込地業を確認、木樋部分では掘込地業の底付近に礫を入れる。SB9075の布掘りを断割る。
3月2日　CC、CD16を掘り下げ柱穴を確認。
3月3日　木樋部分築地を断割る。
3月4日　断割調査。CD18で下層に素掘溝SD16300を確認。木簡出土。
3月7日　断割部分の実測。
3月9日　南北調査区の南に新たな調査区を設定し、掘り下げ開始。
3月10日　遺構検出。築地より新しい池の張出し部を確認。平安時代の土器出土。
3月11日　写真撮影後、実測。
3月14日　実測の後、砂を入れる。
3月15日　断面実測。
3月16日　砂を入れ、器材撤収。調査終了。

F　第271次　6ALF−P・Q　1996.8.30～1996.10.7

8月30日　重機による表土除去。併せて第44次調査区の埋土を人力にて除去。調査地は、南北の里道と東西に残る水田畦畔である。
9月2日　器材を搬入し、遺物包含層である灰褐色土を除去。
9月3日　南北里道部の遺構検出。18ライン上、M～Nにかけて直径20m前後の玉石が南北にならぶ。東面築地の西雨落溝SD9040か。玉石の西側に礫敷を確認。
9月4日　敷礫の清掃。SD9040の検出。
9月5日　トレンチ東端より床土を除去しつつ遺構を検出。床土直下に礫敷面を検出。
9月6日　SD9040を掘り、底石を出す。
9月10日　東西溝SD5890の底石を出す。午後になり東西畦畔部の遺構検出開始。
9月11日　SG5800を掘り下げる。堆積土は黒褐色砂質土。
9月12日　土層図の作成。
9月17日　排水後、東西畦畔の灰褐色土を除去。30～33ラインの中島部分には小礫や景石片が残る。
9月18日　灰褐色土を除去後、黒褐色砂質土を除去。瓦、土器、木片が含まれる。Rライン南壁土層図作成。
9月19日　洲浜礫敷の検出。礫敷の遺存状態は良好で直径約10cmを大とし、その間を1～5cmの小さな礫で埋めている。色目は青～黒系統が勝る。洲浜は21ラインと22ラインの中間で立ち上がるが、礫敷は外側にも広がっている。堆積土のサンプルを取る。
9月20日　礫敷の清掃。AR26・27に、径30cm前後の玉石が据えられている。東西溝の底石で、上層池に伴う施設か。
9月24日　清掃。
9月25日　散水車を使い、地底礫敷、洲浜敷の清掃、空撮用標定点設置。
9月27日　排水後、清掃。池堆積土のサンプリング。写真撮影。
10月2日　排水、清掃後写真撮影。
10月3日　ヘリによる空撮。午後から東面築地の断割。
10月4日　断割土層図の実測。再チェック。レーダー探査。
10月7日　断面土層図の作成。砂を入れて終了。第44次調査区の埋土の除去を終了。

G　第276次　6ALF−A・B　1997.1.23～1997.4.24

1月16日　調査区縄張り、調査地区第99次・第120次調査区に接する。B地点とする。
1月23日　重機にて表土除去。
1月28日　器材搬入。
2月6日　人力による調査開始。現代水路を清掃。
2月7日　第99・120次調査区に重複した部分を再発掘。調査区南壁で近代の野井戸を確認。
2月10日　東から耕土を除去。耕土下はバラスの混ざる黄褐色粘質土、バラス層となる。
2月12日　耕土を除去後、黄褐色粘質土の除去にとりかかる。
2月14日　黄褐色粘質土の除去。
2月17日　黄褐色粘質土を除去後、バラス敷面で遺構検出。
2月18日　バラス敷面を清掃し、写真撮影、北壁に排水溝を掘る。排水溝内で、第120次調査区から続く石組溝を確認。BF34では石詰暗渠SD8472を検出。
2月19日　北壁土層の検討。柱穴や土坑は上層バラス敷下にある為、バラスを除去し整地土上面で遺構検出。BF39で石組溝底石SD9280を出す。SD8472の清掃。唐三彩交胎釉陶枕小片検出。
2月20日　下層バラス面の検出、40ラインと39ライン間で2条の石組溝SD9280・9282を検出。

いずれも、第120次調査区から北に延びる溝。バラス敷は石組溝の東側石にとりつくことから溝より東は全面バラス敷である可能性が高まった。

2月21日　石組溝の西で、重複する掘立柱掘形を検出。庭園の西区画塀で、第120次調査区から続く3条の塀SA9287・9288・9289の柱掘形。

2月24日　塀の柱掘形を検出。

2月27日　清掃、写真撮影。

2月28日　写真撮影後、実測準備。南面築地（第276次A地点とする）発掘の為、重機による表土除去開始。

3月3日　A地点表土除去、B地点実測開始。

3月6日　A地点人力で床土の除去を開始。

3月11日　第44次調査区での検出したSD5850、南面築地北雨落溝SD9272等の再発掘。

3月17日　池の断割調査の準備の為、終日清掃。

3月18日　池の南岸に断割用トレンチ11ヵ所設定。池の排水暗渠SD5830と南面築地の交点及び、築地南雨落溝SD9375の遺構検出。

3月19日　南面築地暗渠部分の調査。暗渠抜取後に据えた側石2列を検出。幅25cm。第4トレンチの掘り下げ、第5トレンチでは桧皮が多量に出土。

3月21日　南面築地暗渠部分の写真撮影。第1～第5トレンチの掘り下げ、半島部にあたる第3トレンチでは上層池底礫敷下の粘土が下層池底石敷下にのびることを確認。半島SX8460は上層池、下層池とも同形か。第2・4トレンチでは、当初の池の掘込地業を確認。

3月24日　第2・4・5トレンチの掘り下げ、第5トレンチの北に柱穴らしきものがあり、この付近が建物のある可能性が強まった。

3月25日　第5トレンチ周辺の精査とともに既出柱穴の再チェック。SB17770の東妻柱を検出。東西棟5間×2間の建物か。西妻柱掘形を検出の為拡張。「中島」SX8460に第6トレンチを設定。掘り下げ開始。

3月26日　第6トレンチの掘り下げ。清掃及び空撮準備。

3月27日　午前空撮、午後実測準備。

3月28日　実測。

3月31日　実測及び遺構検討会。

4月1日　実測。第3トレンチ延長部に第7トレンチを設定し、半島の築成状況を観察。B区土層図作成。

4月5日　実測。L字溝の断割。

4月8日　築地暗渠部分の掘り下げ木屑層より木簡出土。第1～4・6トレンチ写真撮影。

4月9日　築地暗渠部分を完掘。改修が認められ、木樋暗渠→木屑層の溝→石組溝の3期を想定。

4月10日　第5トレンチ周辺の断割調査で柱穴を2ヵ所確認。

4月11日　南面築地下に想定される掘立柱塀の掘形確認の為、掘り下げる。東西5mの範囲に柱掘形は確認されず。B区で柱穴の断割開始。

4月14日　池東岸北側の第10トレンチを掘り下げる。池地業を確認。築山東北部第11トレンチでは「立石」抜取穴の写真撮影実測。B区ではBF41の土坑SK17564を掘りあげる。奈良時代前半の土器出土。塀の柱穴と重複し、柱穴に先行する。

4月15日　B区柱穴の断割、実測。

4月16日　B区砂まき完了。A区に一部砂をまく。

4月18日　A区に砂を入れ、機材撤収。

4月21日　A区第1トレンチ下層石敷に転用された軒丸の写真撮影、とりあげ。

4月23日　A区築山南トレンチの補足調査。

4月24日　A区築山南トレンチの補足調査完了。

H　第280次南　6ALF-A　1997.9.30～1998.1.28

9月30日　重機による上土除去開始。

10月3日　作業員を導入し、各辺に排水溝を掘る。

10月4日　耕土、床土を除去。

10月28日　第44次調査区と重複部の埋土除去と併行して遺構検出開始。里道部分では茶褐色粘質土をとり、南北溝を検出。

10月29日　旧南北里道上で遺構検出。北区検出のバラス敷と一連か。

10月30日　南北里道上AB～AG21・21でバラス敷、AJ17で南面大垣の西雨落溝SD9040と犬走りを検出し、築地本体が現れはじめる。AJ18の柱穴はバラス下にあることを確認。

10月31日　南北里道上で検出していたバラス敷きをはずす。また、AK.L.Mラインでは築地の堰板痕や西雨落溝の上面を検出。南面築地北雨落溝SD9272検出の為、精査を始める。

11月4日　築地北雨落溝SD9272の精査、側石やその抜取り跡が現れ始める。南北溝3をバラス敷下に検出。

11月5日　南北里道上ではバラス敷上面の検出を終了。第44次調査で確認したSB5880及び周辺の柱掘形埋土の除去を開始。

11月6日　SB5880周辺の柱掘形の旧埋土除去を継続。

11月7日　SB5880柱掘形埋土の除去開始。壁が落ち東西方向の布掘状となる。

11月10日　SB5880柱掘形埋土の除去を継続するとともに、池からの排水暗渠SD5830部分を拡張する。

11月11日　SB5880柱掘形埋土の除去をほぼ終え

る。石組み溝が現れ始める。

11月12日　AJ～AJ18ラインで礫敷下に、SB5880の柱掘形2ヵ所を確認。いずれも八角形の柱痕が残る。東庇の位置には柱掘形はない。SB5880の東と北で塀の柱掘形を確定。

11月13日　AO16・17地区で東面築地の精査。築地と西雨落溝の痕跡を確認。SB5880の東と南には、雨落溝が存在していたことを確認。

11月14日　土層図の作成。AI18では柱穴に先行する南北溝を確認。

11月17日　土層図の作成。

11月18日　南面築地北雨落溝の精査。塀の柱掘形が築地と重複し、基壇土→柱掘形→北雨落溝の順番を確認。北雨落溝は２時期か。西雨落溝付近ではSB5880の柱掘形が側石上に積まれた橙灰粘質土から掘られていることを確認。

11月19日　SB5880柱掘形の確認作業。この部分の掘形外周は直径20m前後の玉石敷。

11月20日　清掃後、写真撮影。西雨落溝の掘り下げ。

11月21日　断割調査。西雨落溝は１時期、北雨落溝は改修が認められることを再確認。

11月25日　SB5880柱掘形の断割調査。AJ18柱穴から、根固め用の貫材出土。

11月27日　東面大垣西雨落溝の北延長上に北調査区を設定。東西石組溝SD5890底石を確認。南面築地南雨落溝SD9375の未掘部の掘り下げ。少量の土器出土。

11月28日　SB5880の柱掘形の断割、写真撮影、実測。

12月１日　写真撮影の為、清掃。

12月２日　空撮。

12月３日　地上写真撮影。

12月４日　11時より記者発表。

12月５日　現地説明会準備。

12月６日　現地説明会。

12月９日　現地説明会の後片付け後、実測。

12月12日　南面築地南雨落未掘部の掘下げ。池の排水溝SD5830より西は素掘り、東は側板を木杭で止めていることは確認。

12月15日　SD5830延長部石組溝の側石掘形を精査。

12月16日　石組溝の掘形を掘下げる。

12月17日　清掃後、写真撮影。

12月18日　南面築地北側の断割調査。SB5880を囲む塀SA5815・5816・5817・17769の柱掘形の断割を開始。

12月19日　断割調査及び実測。築地積土と掘込地業土の区分困難。

12月22日　断割調査継続。正月休み対策として土嚢で埋戻すことにする。

12月24日　池排水暗渠の断割調査。木樋の据えつけ手順確認。

12月25日　断割部分の実例。

12月26日　実測を継続するとともに仮埋戻し。

1998年

１月８日　新年の作業開始。土嚢をあげる。

１月９日　南面築地に先行する南北溝SD17760の実測。この溝に斜行溝SD17761、東西溝SD5920が合流していることを確認。

１月19日　東面築地の再チェック。掘込地業、東雨落溝を確認。

１月20日　南面築地の再チェック。

１月21日　南面築地側面下で築地築成前の南北溝１条、築成後の南北溝２条を確認。

１月22日　SB5880の柱根2本を取り上げる。柱の下に楔を使用するものあり。

１月23日　SB5880及び周辺の再チェック。

１月26日　先行する東西溝が南北に合流することを確認。

１月27日　遺物とりあげ。

１月28日　器材撤収、調査終了。

Ⅰ　第280次北　6ALF－A・B　1997.10.3～10.24

10月３日　調査地の北は第245－2次の南拡張区、南は第271次に接する。里道整備に伴う置土を重機にて除去後、地区杭を打つ。

10月６日　人力にて表土除去。表土、茶灰色砂質土の下にバラス敷を検出。発掘区中央では旧里道の両側溝を確認。

10月７日　南半部の表土、茶灰色砂質土を除去。北側で検出したバラス敷は、さらに南に続いている。18ラインでは玉石３個が南北に並ぶ。

10月８日　茶灰色砂質土を取り除きながら、バラス敷を出す。南北に並ぶ塼の周辺の精査。塼は南北溝の西側石をかねたものか。

10月16日　整備に伴い、調査区北側を北に1.5m拡張。BB18の断割で里道側溝肩のバラスが新しいことが判明する。このバラス下に柱穴を検出。

10月17日　バラス下の柱穴群の検出。一辺は0.8m。３間分あり柱間は６尺前後。清掃後、写真撮影。

10月20日　実測。

10月21日　実測終了後、断割調査開始。

10月22日　断割調査。柱穴に先行する南北溝の存在を確認。

10月23日　断割調査。北側の柱穴は、バラス敷で覆われ、下層の溝を壊していることを確認。

10月24日　断割調査終了後、砂をまき撤収。

J　第284次　6ALF−A　1997.6.27～9.22

6月27日　第44次と第120次の間に調査区を設定。南北12m、東西24m、大垣南側で約288m²。

6月30日　重機による上土除去。築地北側は幅1mの細長い調査区を北区とする。

7月1日　北区北端より調査開始。この部分はSG5800の半島部にあたり、床土直下に池底腐食土、礫敷とある。

7月2日　Nライン以北の調査、未掘区は幅30cm。床土除去後、石の抜取多数を検出。

7月3日　遺構検出。NラインでSG5800Bの洲浜、Mラインで南岸を検出。

7月4日　Mライン以南の既発掘区の再発掘。

7月7日　37ラインの南北石組溝以西の清掃。AL−AM34区の精査。2棟の東西棟建物SB17700、SB17582の掘立柱掘形を検出。

7月8日　東西棟建物の掘形を検出。第120次で検出していたSB17700の布掘り地業を再発掘。

7月15日　南区床土除去。

7月22日　南面築地部分の床土除去。AI34で犬走り部分がかろうじて残る。AH34に野井戸検出。

7月23日　AH34区の野井戸発掘。

7月24日　35ライン西側の礫混橙色粘質土上面で築地の南雨落溝SD9375を検出。

7月25日　35ライン築地部の精査。築地南雨落溝は幅1mとなる。

7月29日　35ラインの東に向かって築地南雨落溝の検出。

7月30日　36ライン以東E～G区の表土、床土を重機により除去。壇地部分で34ライン以東H～Eラインの遺構検出、34ライン上に南北溝、第44次調査区から続く土坑を検出。

7月31日　36ライン以西、Eライン以北　灰褐色土を除去し、遺構検出。

8月1日　暗灰褐色粘質土の整地土面で遺構検出。40ライン東で南北方向の木樋SD17695を検出。

8月12日　36ライン西1mの南北溝は完掘。灰褐色砂が堆積。

8月18日　築地南雨落溝の掘り下げ。SD17695の南端を一部下げる。

8月25日　清掃後、写真撮影。

8月26日　写真撮影、実測準備、実測。

8月27日　11時より空撮、午後実測。

8月29日　実測継続。

9月8日　SG5800の南岸にある2棟の建物の西妻付近の精査及び断割調査再開。

9月9日　SB17700、SB17582の精査。SB17582の北側柱柱穴の北西隅とその東を検出し、東西棟6間×2間であることを確認。検出面は上層池の池底礫敷の下。

9月10日　AM、AN32・33区で上層池の池底礫敷をはずし、柱掘形を検出。布掘建物の北疵及び礎石建物の北側柱列を検出。

9月11日　AM34区洲浜南部の断割調査。L字状の掘込地業の一部を確認。AL34・33でSB17582の柱穴の断割，SB17700に先行する。

9月12日　2棟の建物の断割調査及び上層池の堆積土除去、清掃、写真撮影。

9月18日　実測準備、実測。

9月19日　実測終了。

9月22日　南面築地付近の断割調査再開。

K　第302次　6ALF−B　1999.6.8～1999.7.30

5月21日　調査区設定。

6月8日　重機により厚さ20cmの耕土を除去。南と西に排水溝を掘る。耕土より下層は順に橙灰褐色粘質土、バラス混灰色砂質土、黄色粘土粘質土混じりの灰色粘質土となる。

6月9日　ベルトコンベヤーをセットし、西端から橙灰褐色粘質土上面で遺構検出開始。斜方向の耕作に伴う溝を検出。

6月11日　前日に引き続き、遺構検出。排水溝底で平石の集合部を検出。第99次調査で検出されているような、礎石建物の根石か。

6月14日　平石の集合部検出のため、北東隅を一部拡張。

6月17日　橙灰褐色粘質土上面での遺構検出終了後、写真撮影。下層にあるバラス混灰色砂質土上面で遺構検出開始。

6月18日　顕著な遺構なし。

6月21日　38ラインで土坑2基を検出。

6月22日　バラス混灰色砂質土上面の清掃、写真撮影。降雨の為、10時30分で作業中止。

6月23日　バラス混灰色砂質土を除去し、遺構検出。排水溝で検出していた平石の集合は、南北に延びる。蛇行溝SD18120の底石であることが判明。底石真上には水が流れた痕跡を示すように灰色砂が薄くたまる。そして、その上はバラスで埋めたてられている。

6月28日　北壁断面図作成。

6月30日　排水後、SD18120検出の為南東隅を一部拡張。

7月1日　橙色砂質土下で、SD18120を埋め立て

たバラス上面を検出。Fライン以南では不整円形の土坑を検出。

７月２日　36ライン以東の写真撮影。36ライン以西はバラス混灰色砂質土とその下にある橙色砂質土を除去する。

７月５日　調査地北半を拡張開始。南半部はバラス混灰色砂質土上面で遺構検出。Ｉラインで南北にならぶ柱穴、３ヵ所を検出。その他小土坑を多数確認。

７月６日　北半部で重機による上土除去と平行して、東から橙灰褐砂質土を除去しつつバラス混灰色砂質土（上層バラス）断面を精査。35ライン以西には上層バラスはなく、整地土が直接現れる。35ラインの東には第276次で検出したSD8472が延びている。

７月７日　北半部の遺構検出、土坑や耕作溝を検出、Lラインでは現代の東西溝を検出。

７月８日　写真撮影後、砂が多く混じった上層バラスを除去。SD18120の底石は無く、その抜取り痕跡を確認。

７月９日　SD18120の輪郭を明らかにする為に35ライン以東上層バラスを除去。34ライン西側には円礫が集中する小池状のSX18125あり。SD8472はSD18120より新しい。

７月12日　SX18125の精査、円礫は楕円形の範囲に収まる。Iライン以南でSD18120底石を検出。

７月13日　調査区西半で重複した柱掘形３間分を検出、第276次調査区から斜めに延びる塀の一部。SD18120の掘形及び底石抜取跡を下げる。

７月14日　斜方向の掘立柱塀は、SA9061・18122・18123の3条が存在することが判明。写真撮影、実測準備。

７月15日　実測。

７月23日　実測終了。

７月26日　11：00から記者発表、午後より断割調査。

７月27日　SD18120、SD8472の断割調査。

７月28日　SD18120、SD8472の北端で、底石の抜取跡の精査。

７月29日　SD18120の底石の抜取跡の検出、および塀の柱穴の断割、実測。

７月30日　調査終了。砂入れ器材撤収。

L　第323次　6ALF-B　2000.12.11～2000.12.28

12月11日　重機による表土除去。

12月13日　遺構検出開始。耕土直下の灰褐色砂質土層を掘り下げバラス面を検出。第302次・276次の埋め戻し土を除去。

12月14日　バラス面で遺構検出。東西溝（Ｆ）を検出。調査区南東部にはバラス面はなく、第276次調査区から続く奈良時代掘立柱東西塀の掘形、中世の土坑、近世の野井戸を検出。

12月15日　バラス面を除去し、遺構検出。調査区西端で第120次・302次で確認した掘立柱塀の掘形を検出。３期の重複SA9061・18122・18123を再確認。

12月19日　清掃。地上写真撮影。

12月20日　写真測量。

12月26日　実測、12月28日終了。

12月28日　調査終了。